

登熟期～収穫期

8月は高温で推移し、あきたこまちは8月後半の残暑の影響もあり、登熟が順調に進みました。一方で、高温や圃場に水が入っていない状態が続いて稲体の体力が消耗したことや、中干しが不十分であったこと、下位節間の伸長や一穂当たりの着粒数が多かったことから、9月上旬の降雨などによって倒伏した圃場が非常に多く発生しました。

刈り取り作業では9月15日頃から始まり、全体的な収量は平年より多く、管内の米の買入れ状況は全品種計で契約数量対比の107.2%となりました。しかし、高温障害が原因の「胴割粒」や「心白粒」などが見られ、特に晩生品種では「充実度不足」による下位等級も多く、1等米比率の低下に繋がりました。



令和2年産主食用米 集荷数量実績

(個人集荷数量へ施設受入重量60kg換算値を加えた数量)(単位: 60kg/俵)

地区	出荷契約数量	集荷数量	進捗率(%)
追分	37,205.0	41,779.5	112.3%
飯島	24,688.5	28,099.5	113.8%
秋田駅東	28,383.5	30,839.0	108.7%
御野場	22,542.0	24,204.3	107.4%
新屋駅前	15,526.5	17,825.4	114.8%
雄和	63,312.5	67,584.7	106.7%
河辺	35,255.5	36,767.2	104.3%
秋田地区計	226,913.5	247,099.6	108.9%
男鹿	39,090.0	39,265.0	100.4%
北浦	18,555.0	19,711.0	106.2%
天王	54,898.0	59,459.0	108.3%
若美	72,866.0	76,477.0	105.0%
男鹿地区計	185,409.0	194,912.0	105.1%
合計	412,322.5	442,011.6	107.2%

2等以下の格落ち理由(うるち米)

(単位: 60kg/俵)

格落ち理由	数量	比率(%)
充実度	71,986.0	70.0%
カメムシ	16,952.4	16.5%
その他未熟	5,032.8	4.9%
胴割粒	3,996.3	3.9%
心白粒	1,945.5	1.9%
もみ混入	885.5	0.9%
青未熟粒	691.5	0.7%
うるち玄米混入	316.0	0.3%
異種穀混入	303.5	0.3%
発芽粒	204.5	0.2%
その他部分着色粒	173.5	0.2%
肌ずれ	128.0	0.1%
精米混入	123.5	0.1%
胚芽欠損粒	56.0	0.1%
異品種混入	34.0	0.0%

次年度に向けた取り組み

ケイ酸質資材で高温障害への対策をしましょう

気象変動に対応した土づくりは、作柄だけでなく、品質の低下を軽減させるためにも急務です。ケイ酸質肥料を使用することで、丈夫な稲体を作り、高温の影響や斑点米などといった病害虫による被害を軽減できるようにしましょう。

適切な除草でカメムシ被害を防ぎましょう

カメムシはヒエやホタルイなどに産卵するため、水田内に雑草が多い圃場ではカメムシが多発し、斑点米による落等に繋がります。雑草が多く残る場合は田植え後の除草体系を見直し、除草剤の適期散布をしましょう。本田防除では、出穂期以降2回防除するよう徹底することが重要です。山間部などの多発地帯でも2回殺虫剤を散布し、法面や休耕田の草刈りをできる限り行い、カメムシの生息地を減らすようにしてください。

代掻き後に雑草が動き始めるため、除草剤の散布は代掻きからの逆算が重要となります。初期剤は代掻きから10日以内に、一発除草剤のみであれば15日以内と、できるだけ日数を空けすぎずに散布できる作業体制に努めましょう。

安定収量の確保のため適期作業に努めましょう

適期に田植え作業を行っていない圃場で、最終的に収量の低下につながってしまった圃場が一部で見られました。近年の気象変動のなかで高品質米を安定的に生産するためには、計画的な作業が重要となります。田植えが適期にできない場合は茎数の低下や穂数の不足に直結してしまいますので、田植え作業のスケジュールを立て、計画に合わせた作業をお願いします。

